

## ご参加いただいた皆様

参加団体(人数)

- 第1回(川崎区) : 17団体(18名)
- 第2回(幸区) : 7団体(7名)
- 第3回(中原区) : 9団体(14名)
- 第4回(高津区) : 8団体(14名)
- 第5回(宮前区) : 14団体(30名)
- 第6回(多摩区) : 12団体(12名)
- 第7回(麻生区) : 14団体(19名)



第1回(川崎区)



第2回(幸区)



第3回(中原区)



第4回(高津区)



第5回(宮前区)



第6回(多摩区)



第7回(麻生区)

本年度は81団体114名の方にご参加いただき、活発な意見交換をすることができました。平成24年度も開催する予定です。是非、ご参加ください。

# 平成23年度緑の交流サロン 報告書

主催:(財)川崎市公園緑地協会



今年度の新たな試みとして「緑の交流サロン」を開催いたしました。緑や花という共通する話題を持ち、比較的近くで活動をしていながら、なかなか直接話をする機会がないという意見から、気楽に話してもらえるきっかけとして、サロン形式で各グループに参加をしていただきました。開催は、7月から1月まで各区1回の開催となりました。

サロンは第1部の講演会と第2部のディスカッションの2つの構成で進行了しました。

### 第1部

- 13:00 ~ 13:10 開会あいさつ、説明、スタッフ紹介
- 13:10 ~ 13:50 講演会

-休憩-

### 第2部

- 14:00 ~ 14:40 ワールド・カフェ  
内容説明、アイスブレイク、  
前半グループディスカッション
- グループメンバー入れ替え-
- 14:50 ~ 15:20 後半グループディスカッション
- 15:20 ~ 15:55 まとめ、発表、成果の共有(評価)
- 16:00 ~ アンケート記入、閉会挨拶、写真撮影、  
解散



講演会は毎回異なったテーマで講師を招き、スライドや資料をまじえて講演いただきました。

### 講演会 日にち/テーマ/講師

第1回(川崎区)	7月28日(木)	「イングリッシュガーデンに学ぶ素敵な庭作り」 続京子氏
第2回(幸区)	8月25日(木)	「街づくりに有効な花の修景と効果」 徳原真人氏
第3回(中原区)	9月29日(木)	「花苗の供給とリサイクル・生産ノウハウ」 稲本喜久夫氏
第4回(高津区)	10月27日(木)	「身近な樹木と病害虫」 眞岡雄一氏
第5回(宮前区)	11月11日(金)	「緑化活動と防災のまちづくり」 小松尚美氏
第6回(多摩区)	12月15日(木)	「里山保全活動と子どもたち」 相川明子氏
第7回(麻生区)	1月26日(木)	「環境教育と体験プログラム」 石川啓吾氏



# グループ・ディスカッションのまとめ

- 立止まる方への誘いの声かけ
- 通行する人へのあいさつ
- 興味のある人への誘い、一本釣り
- 口コミ
- プラカード、掲示板の設置
- 会報、パンフレット、チラシの作成、園芸店などに置かせてもらう
- ホームページの立ち上げ
- 高齢者のコミュニティの場として提供
- 子育て母子への誘い
- 町内会にお願いして勧誘、回覧板の利用
- 市、区の広報誌、ホームページに掲載
- イベントで勧誘
- 花の種プレゼント
- 仲間づくりは基本的に楽しく行う

## 仲間の集め方



- 学校の緑のカーテンの指導
- 総合学習の中で花育授業への協力
- 学校イベントへの参加
- 緑化委員や学校の園芸クラブ、文化センターと連携
- 体験学習花壇の提供
- 課外授業等学校からの見学の受け入れ、補修授業としての参加促進
- 学校の先生に興味をもってもらうことが大切
- 子どものためのイベント、土いじり、生き物に触れるなど
- 自然観察会、昆虫観察会、夏の夜間観察会、講習会の実施
- 子ども会と共同企画
- 餅つき、焼き芋、収穫祭等のイベント開催
- 定期的な清掃時に声かけ
- 企業や学校、町内会等の他組織との連携を図る
- 土曜日、日曜日、祝日に活動
- HP等を作り若い人にPRする
- 子どもたちに花苗を配る、植えてもらい、開花したら花染めをする
- ハーブの花などで、若いお母さんの参加推進
- 農業・園芸系の大学生との交流
- 有料イベントの開催

## 若い世代や子どもたちの参加促進

- 電話、FAX、メール、手紙・はがき、口頭、回覧
- マンション、町内会、作業場の掲示板
- 連絡網ができており電話連絡
- 事務局、役員が連絡をしている
- 緊急は電話で連絡する
- 例会の時に連絡する
- 直接ポストに入れる
- 名簿に興味や特徴を紹介し、会員全員の把握
- 年間活動日、月スケジュール、活動曜日が決まっている
- 都合のつく人が参加する
- インターネットの活用が必要

## 会員同士の連絡の方法



- ホームページ、区のホームページ
- 町内の掲示板、回覧板
- 町会、老人会などの集まりで広報
- 広報チラシの配布（学校、町内会に依頼、公共施設においてもらう）
- 区やマンション内の広報誌に掲載
- 広報委員がPR紙（模造紙2枚分）作成
- 広報は行政がやってくれる
- 友の会だより、会員ニューズレター、会報（2か月に1回）
- 活動報告も行う
- プラカードの作成
- 男手が必要な時は老人会で会ったときに頼む
- 友達が友達を呼ぶ
- 子育て親子に声かけ
- 緑のタウンページ
- メールマガジン
- イベントで活動報告をする
- 公園のエントランスに掲示
- 口コミ
- 電話、メール、訪問、ポストイン
- 花をほめてくれた人に育てた花を花束にして渡す

## 活動のお知らせ・広報

## テーマ：仲間をふやしたり、参加を促進するために

- 花苗、種のプレゼント
- 写真展（写真のプレゼント）
- 町内会など他のイベント、年中行事に参加し、PR活動
- 山野草、押し花の講習会、菊花展など
- 炭焼き教室、野鳥の観察会、夏の夜の観察会、カブトムシの幼虫取りなど
- 興味をもてるような研修会、勉強会、講演会など
- 花見、芋煮会、ソーメン流し（有料）、七草粥など食べ物のあるイベント
- 芋ほり、焼き芋・芋ほり（有料）、タケノコ掘り
- モノづくり、ハーブグッズ作り、絞り染めなど
- 植樹祭、バラ祭り（年1回）、収穫祭りなどの開催
- 他の団体との得意分野を活かしたイベントの開催
- 花緑のコンクールに参加
- 七夕に近くの商店街でササを飾る
- 人目に付きやすいところにプランターを設置
- 年2回森のコンサート
- イベントのチラシは学校でも配布する
- お茶会や忘年会も公園で行う
- 小学校での花の植え替えイベント、自由な花植えイベント
- フリーマーケット、バザーの開催
- バス旅行（年2回、80～90人程度参加）、山里歩き

## 仲間をふやすイベント

- ホームページの作成
- 口コミ勧誘
- 入会パンフレットの作成、イベント時につくられたものを利用
- NPO化し、経費、交通費を確保する
- まちづくり講座などでのPR
- マスコミへのPR
- 町会の行事開催時に花を植える
- 計画性のある宣伝
- 障がい者の参加推進
- 行政、周辺施設との友好な関係
- 子どもを通じたコミュニケーション
- 近くの小さな集まりをまとめて大きな活動に広げる
- 小学校、中学校、高校、大学に呼びかける
- チラシの配布、公共施設に会報を設置
- 会費を無料から有料にしたら会員が増えた
- 団体同士がつながり宣伝効果を高める
- 名札を付けて作業
- 通行人にあいさつをする
- 写真展や愛好家との協力
- 作った苗、花の配布、ミニブーケ、収穫物
- 活動の内容（回数、時間、スケジュール）を伝える
- 活動日を増やす
- イベント時に募金箱を設置
- 見学会の工夫、ボランティア団体見学ツアー
- 女性の方を誘いかける
- 木の種類の多様化、果樹など
- 焼き芋、虫とり
- 稲作り、畑作り
- 堆肥を作りリサイクルを行う
- 飲みにコミュニケーション
- チェーンソーや脚立などの道具が自由に使えるようにする
- 草刈りを行い参加しやすくする、落ち葉清掃や草刈がイベントになるといい
- 区役所主催の緑関係ボランティアフェアを開催してはどうか

## その他のアイデア

## テーマ：コミュニケーションを豊かにするために

- プラカード、看板の設置「仲間に入りませんか（勧誘）」「ボランティアがやっています」などの掲示
- 防犯カメラで監視、マイクで注意放送
- パトロール、揃いの帽子やベストを着用
- 花の植え替え時に通る人に声をかけコミュニケーションを図る
- 防護柵、ロープ、網をかぶせる
- イタズラをされてもそのままにせず植え替える
- 毎日掃除してくれる人がいる、きれいにしておくことが大切
- プランターに名前を書いておく
- 樹木を勝手に植えていく場合は、貼り紙で趣旨説明
- エアガンで遊ぶ子どもには、弾丸は持ち帰るように伝える
- イタズラしやすい公園にして、イタズラを子どもの気持ちに聞く
- 自転車の乗り入れは声掛け注意
- 小学生による植え込み体験
- 新築した倉庫に、イタズラ防止として子供たちに絵を描かせた
- 盗難よけに「うどんこ病」の消毒を小麦粉で装う
- マムシが居ることを知らせる看板
- トラブルにならないよう無視する
- 花壇に投書箱の設置
- 植生保護区を設けて、立ち入り禁止にする
- 保護観察会などの前にレクチャーを行う
- 苗の抜き取り、たけのこの盗難（警察にパトロール依頼）
- 警察に被害届を出す
- 鳩除けに風車を置いている

## イタズラを防ぐ工夫

- グループ活動は基本的に楽しくなければならぬ、それにより活発になる
- 種から育ててコストダウンを図る
- バラの剪定時に切枝をもらい増やす
- 地元の生産農家から苗の育て方を教わる
- 苗の交換情報があると良い、交換を行っているグループもある
- 堆肥ボカシを作っている、落ち葉でも堆肥づくりをしている
- 専門家の講義を行う、他のグループにも広報
- 観察会、バードウォッチング、夏の夜の観察会
- ハーブなどを植え、グッズ作りにつなげる
- おいしいものを作ってみんなで食べる
- イベントに300名の応募があり、地域の子供に限定した
- 中学生の寄せ植え体験は好評
- 緑地協会のイベントには参加する
- 他の団体、都市との交流、町会や学校との連携
- 朝顔の観察日記のように子どもに育てさせる
- 花のラベルをつける（学校の見学会対応）
- 近所の小中学校と交流を企画、総合学習の講師、青空教室
- マンションなどは理事会が核になるより高齢者が中心に活動をした方が続きやすい
- 一泊のバス旅行
- ミニコミ誌に掲載することで自分たちのやる気につなげる
- 夏場だけの水やり助っ人を募集、その後にお疲れさん会を開催
- 活動日と内容をノートに記入し情報の共有
- 日替わりで作業リーダーを替え、皆で共有
- 作業を知らせるためにのぼり旗や共通のジャンパーを着る
- 活動10周年を記念して冊子を製作中
- 花壇お世話している人の顔写真、イラストを看板で掲示する

## その他のアイデア